

令和5年度 環境活動スタート事業

1 実施校

二本松市立東和中学校（3学年）

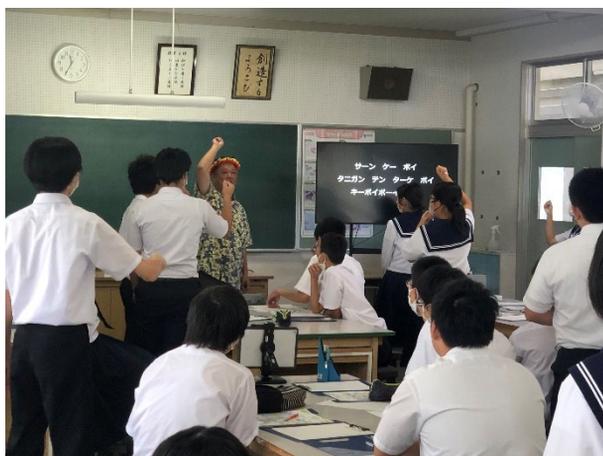
2 実施日

令和5年9月12日（火曜日）

3 内容

「国がなくなる?! キリバス共和国と地球温暖化」をテーマに、一般社団法人日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノ氏による講演会を行いました。

キリバスの歴史や現状、また、地球温暖化が及ぼす影響について、資料映像（VTR）や写真を交えながら分かりやすく説明しました。



4 講演を聞いての感想

キリバスに住んでいる人々は不安でいっぱいだと思うし、当たり前前の日常がなくなってしまうというのはとても悲しいことだと思った。未来や自分達の子供達のためにも今の現状を一人一人が理解し、改善につとめていくことが必要だと思った。

今日まで地球温暖化についてあまり深く考えたことはありませんでした。ですが、今日の講話を聞き、日本は重大な役割をしているのだとわかりました。太平洋の島々を守るために、自分に何ができるのかを考え、毎日生きていきたいと思います。

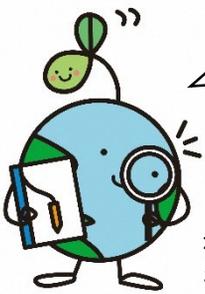
今まで私は地球温暖化について知っていましたが、そこまで危機感を持ってはいませんでした。ですが、今日話を聞き、本当に大変なことであり、少しの積み重なりで今までの常識が変わってしまうことがわかりました。そして、私たちの愛に希望を持っている人たちを少しでも助けてあげられるよう努力したいです。グローバルに考えローカルに行動し、誰も取り残さない未来を私たちが造りあげます！

地球温暖化について今まで聞いたことのない話ばかりで驚きました。二酸化炭素を多く排出している日本でなぜ今まで知らなかったのか、日本人が地球温暖化をどれだけ軽視しているのかわかり、少し残念に思いました。簡単に解決できることではないけれど1人1人の意識で少しずつ現状を変えられるならぜひいろんなことに取り組んでみたいと思いました。

今回この講演を聞いて、SDGsのことや地球温暖化のことはあまり興味や関心がありませんでしたが、実際にキリバスの現状などを知って、自分なりにできることをやっと思いしました。またケンタロ・オノさんのように私も一人でも多くの人にこのことを伝えていきたいです。

「地球温暖化」という言葉は何度も聞いたことがありましたが聞いて終わりでした。正直なところ私たちができることはないとも思っていました。でも、今日話を聞いて私たちにもできることはあるし、私たちの小さな努力が未来を少しでも変えようと思ったら、目の前の大きな問題から目を背けてはいけないなと思いました。「地球温暖化」で苦しんでいる人が少しでも減るように、「誰一人取り残さない世界」を私たちの考え、行動でつくってきたいです。

話を聞いて思ったことは、私は正直地球温暖化なんてどうでもいいという考えを持っていました。ですが、今日話を聞いてキリバスの海や温暖化に恐怖を感じました。そしてSDGsは誰一人残さないと言うことを学ぶことができずすごくいい経験になったと思います。今私たちが当たり前前に生活ができていることは幸せな事なので、これから貧しい国の人たちに何か役立つことをしたいと思いました。地球温暖化を進めないためにボランティアなどさまざまなことをしたいです。



福島県の環境保全の
キャラクター「エコたん」

講演を聞いて、自分にもできそうだったこと、やってみようと思ったことは何かな？また、それを実践してみてどう感じたかな？

- 水道の蛇口をこまめにしめる
- 食べ残し削減
- こまめに電気を消す

少しのことを意識するだけで地球のためになると思って実践していたので何の苦も無くできました。あきらめないで継続していくことが大切だと思うのでこれからも小さなことから頑張っていきたいです。



- 食べ残しを減らす
- ポイ捨てなどをしない

ごはんを食べる時は、自分が食べられる量だけを取り分けてるように心がけました。ポイ捨てをするとキリバスの島々に流れついてしまうということが分かったので、ごみはごみ箱に捨てる、そもそもごみをあまり出さないように心がけました。



- 節電
- むだなものを買わない

使っていないところの電気やクーラーは消すことができ、欲しかった物もあったがよく考え、いらぬと判断し、買わなかった。



- 食品ロス削減
- ごみの減量

残りものを少なくするために一人分の料理は皿に分けるようにしました。プラスチック製の袋をあまり使わないよう努力して生活していきたいと思いました。これを機に、これからも地球温暖化対策に貢献できるようにしたいです。



- 食べ物を残さずに食べる
- 使わない部屋の電気を消す

「食べ物を残さず食べる」や「使わない部屋の電気を消す」など、やってみると意外と簡単で、これだけで少しは減るんだと思うとこれからも続けていこうと思えました。また、これ以外のことにも挑戦して、社会に貢献できるようにしたいです。

